

活動報告書

八国山巡り・神社仏閣を訪ねる

記 茂出木 正和

実施日時 2021 年 3 月 18 日(木) 9 時 10 分～12 時 40 分

参加者 19 名

1、はじめに

緊急事態宣言発令中、野老澤の歴史をたのしむ会 3 月の活動は全て中止となった。「第 26 期市民大学修了生発表会」および「安松ざるの講習・体験会」です。そこで 3 月 18 日、野外活動である「八国山巡り・神社仏閣を訪ねる」(前月 2 月 4 日予定、中止となったもの)を「安松ざる講習・体験会」の代替として急遽計画した。当日充分に感染防止に努めつつ、春訪れる八国山の尾根道を巡り、東村山市の神社仏閣等を訪ねることができた。

2、集合 [9 時 10 分集合、9 時 20 分発路線バスに乗車]

所沢駅西口駅前広場 1 階ワルツ入口付近に定刻前 18 名が集合。
担当者紹介、大館代表挨拶、参加者の自己紹介、注意事項・コース確認をし、快晴のハイキング日和の中西武バスに乗車した。

3、コース概要

西武バス所沢駅西口バス停にてバス乗車(西武園行 9 時 20 分発)⇒
⇒バス停「将軍塚」にて下車 [1 名現地参加、計 19 名]⇒久米川古戦場跡 ⇒
⇒将軍塚 ⇒おおぞら広場(休憩)⇒八国山尾根道の分岐地点 ⇒
⇒ふたつ池 ⇒西武園線踏切 ⇒下宅部(しもやけべ)はっけんのもり ⇒
⇒八国山たいけんの里 ⇒正福寺地蔵堂(都内唯一の木造国宝建造物)⇒
⇒大善院 ⇒東村山停車場の碑・西武新宿線東村山駅(解散)

4、食事

設定なし(3密を避けるため食事会なし)

5、担当

A グループ 黛 雅昭、谷恵子、茂出木正和

6、記録

①久米川古戦場跡 [9 時 38 分～]

9 時 28 分バス停将軍塚に到着、下車後人員確認し出発する、途中道路工事のため迂回しながら久米川古戦場跡の碑まで歩く。

資料によると、狭山丘陵東麓から柳瀬川にかけて広がる一帯は、古代武蔵国府と上野国府を結ぶ東山道武蔵路が通り、鎌倉時代には鎌倉から上野国に向かう鎌倉街道上道が南北に縦断する交通の要衝でした。やがて戦乱の時代になると、ここ久米川の地は軍事的な拠点として重視され度々戦場となります。主な戦いは次の通りです。

元弘 3 年(1333)久米川合戦、新田義貞が鎌倉幕府倒幕のため挙兵。

建武 2 年(1335)中先代の乱、北条時行(高時の遺子)が鎌倉幕府再興のため挙兵。

文和元年(1352)武蔵野合戦、足利尊氏ら北朝方と新田義宗、義興ら南朝方との戦い。応永 24 年(1417)上杉禅秀の乱です。



久米川古戦場跡

この中で特に有名なのは久米川合戦です、新田義貞の挙兵に対し、幕府軍は鎌倉街道を北上、小手指ヶ原で一戦を交えた後久米川へと戦場が移ります。新田義貞軍は久米川の戦いで勝利をおさめ、その後鎌倉へ侵攻し、鎌倉幕府を倒した。

②八国山尾根道

八国山尾根道はなだらかに広がる狭山丘陵に位置し、静かな雑木林に東西 1.9km の尾根道が続く。八カ国の山々が見渡せたことが名前の由来といわれる、八カ国は上野、下野、常陸、安房、相模、駿河、信濃、甲斐です。



八国山尾根道



八国山より所沢タワーマンション群を望む

③将軍塚 [9 時 53 分～ 集合写真撮影]

尾根道入口から暫くのぼり坂が続く、振り返れば所沢市内の高層マンション群が間近に見渡せる、コナラ、クヌギ等の気持ち良い雑木林の中を進む、久米川古戦場跡から 10 分ほどで将軍塚にたどり着く。道沿いに元弘青石塔婆所在跡の碑が見える、その奥の塚の上の木立の中に将軍塚の碑がある。二つの碑の見学後、集合写真を撮影する。

資料によると、新田義貞が鎌倉攻めのときに陣を置いたと伝えられている。また鎌倉攻めのときに塚を築いて白旗を立てたところともいわれている。

元弘 3 年(1333)5 月 8 日後醍醐天皇の勅命を受けて新田庄生品明神(現群馬県太田市)で鎌倉幕府倒幕の兵を挙げた新田義貞は、鎌倉街道を南下して小手指ヶ原・久米川・分倍河原・関戸の合戦を経て鎌倉に侵攻、5 月 22 日に鎌倉幕府を滅亡させた。

③-2 元弘青石塔婆所在跡碑

かつてこの場所に国指定重要文化財の通称「元弘の板碑」があった。元弘の板碑は現在東村山市の徳蔵寺の板碑保存館に展示されている。

資料によると、この板碑は上半分が欠け、歴史資料としては実証性に欠ける部分が多いといわれる太平記の物語を補足する重要なことが刻まれている。

元弘 3 年(1333)新田義貞が鎌倉攻めの時に分倍河原や相模の村岡の戦いの時、討ち死にした飽間氏一族 3 人の供養のために建てたことが分かっている。飽間齊藤氏は群馬県安中市の秋間村出身の人といわれ、飽間の地は里見氏の里見郷と続き、里見、飽間両氏は早くから新田氏に従っていた。

太平記に伝わる 5 月 15 日の分倍河原合戦をはじめとする新田軍の鎌倉総攻撃を史実として裏付ける貴重な資料といわれている。



元弘青石塔婆所在跡碑



将軍塚（後方）の碑の前で

④おおぞら広場(トイレ休憩) [10 時 5 分～]

日当たりの良い気持ち良い広場、眼下には東京白十字病院と新山手病院が見える。新山手病院は「となりのトトロ」の舞台となった病院といわれている。おおぞら広場にはトイレがあり、小休止をとる。

⑤下宅部(しもやけべ)はっけんのもり [10 時 50 分～]

八国山緑地のころころ広場の南方の住宅地の中に縄文時代後期の遺跡公園がある。都営住宅の建替えの際に発見され、平成 8 年(1996)から発掘調査がされた。縄文時代の生業や漆工関連技術を示す遺構や遺物が充実した重要な遺跡であることから、一部が埋没保存され、現在は公園となっている。平成 27 年(2015)東京都は都指定史跡とした。

資料によると、狭山丘陵を水源とする北川左岸の沖積低地に位置する旧石器時代から近世にかけての低湿地遺跡。旧河道とその周辺にあることから、土壌に水分が多く含まれるために木材等によって構成された遺構、木製品等が良好な状態で数多く発掘された。

その中でも縄文時代後期を中心とする精巧な加工を施された漆工関連出土品は特に優れている。櫛、鬢かんざし、漆塗弓や容器、杓子、黒色漆や赤色漆が塗られた土器や土製耳飾などがある。更に樹液採取時の傷が確認されたウルシ材の杭、保管用・調整加工用・補修用・塗布用等の容器として使われた土器片、破損箇所を接着剤やパテとしての漆を用いて補修した漆接合土器なども出土した。平成 21 年(2009)東京都はこれらを都指定有形文化財(考古資料)に指定した。

⑥八国山たいけんの里 [11 時～11 時 35 分]

下宅部はっけんのもりから東へ 300m、下宅部遺跡の実際の出土品等を間近に見ることができる施設、狭山丘陵の動植物などを題材とした体験学習もできる。下宅部遺跡の漆工関連出土品等の収蔵展示が充実している。

当日八国山たいけんの里の職員から下宅部遺跡およびその収蔵品について詳しく説明を受けた。約 30 分間滞在することができたが、参加者の多くが縄文時代後期から晩期(約 4200 年～3000 年前)の漆塗弓や精巧な櫛、縄文人が使った籠などを身近に見ることができ、その素晴らしさ技術力の高さに驚愕した。



下宅部はっけんのもり遺跡公園



八国山たいけんの里・下宅部遺跡の出土品等を見学

⑦正福寺地蔵堂(都内唯一の木造国宝建造物) [11 時 50 分～ 集合写真撮影]

八国山たいけんの里から住宅地の道を正福寺の大きな伽藍を目指しながら歩く、境内の墓地の中を進むと地蔵堂の優美な禅宗様の建築物が目の前に現れた。こけら葺き入り母屋造の強い反りがある屋根に特徴がある、都内唯一の木造国宝建造物に一同感激した。見学後、地蔵堂前にて集合写真を撮影。その後北条家の家紋が見える本堂および本堂周辺を散策することができた。

資料によると、臨済宗建長寺派の禅宗寺院。創建は不詳であるが、寺蔵の「千躰地蔵菩薩略縁起」によれば、北条時宗が鷹狩りの最中に病に罹り、夢で黄衣の僧から一粒の丸薬を得て全快する、地蔵菩薩の霊夢に感動し、ここに正福寺を建設したと伝わる。実際は弘安元年(1278)北条一族の入宋僧無象静照が師の南宋径山寺石溪心月を勧請開山として草創したと考えられる。

地蔵堂は昭和 8 年(1933)の改修の際に発見された墨書銘により、山号は金剛山で、室町時代の応永 14 年(1407)の建立と推測される。建造物として昭和 27 年(1952)に国宝の指定される。鎌倉の円覚寺舍利殿とともに禅宗様の代表的建造物。こけら葺きの屋根は 30 年に一度葺き替えられている。

堂内には千体を超える小地蔵を安置し、年 3 回特別公開される。地元では正福寺千体地蔵堂と呼ばれている。東京都に 2 つの国宝建造物がある、一つは旧東宮御所(政府の迎賓館)であり、もう一つが正福寺地蔵堂です。



国宝・正福寺地蔵堂

⑧大善院〔12 時 20 分〜〕 恵日山大善院、天台宗寺院。通称「東村山野口不動尊」。

資料によると、大善院は以前八王子市本寺恵日山圓通寺の塔頭(たちゅう)であった。明治 32 年(1899) 在家出身の住職が出身地である東村山に現在の本堂を建立し、初代慈善和尚を迎えてこの地に開山する。明治 39 年(1906)に不動明王を、さらに境内に唐金製不動明王三十六童子を安置した。不動尊縁日には参拝者があとを絶えず四隣に知れ渡る。

⑨東村山駐車場の碑〔12 時 30 分到着、説明後、大館代表挨拶、解散〕

今回の最終目的地の東村山駅構内に到着した、駐車場の碑の見学後、大館代表挨拶で無事「八国山巡り・神社仏閣を訪ねる」イベントを終えた。

参加者の皆さまお疲れさまでした。今後も出来るだけ身体を動かし、健康維持に努めていきましょう！
本日は有難うございました！

資料によると、明治時代最初の鉄道開業ブームが起きると、明治 16 年(1883)日本鉄道の高崎線の上野から熊谷まで、明治 22 年(1889)甲武鉄道の新宿から立川までが開業した、そのような中で空白地域の東京西部・埼玉県中南部に鉄道開業の機運が高まった。川越鉄道発起人には所沢から 9 名が参加した。明治 27 年(1894)12 月に川越鉄道の最初の区間である国分寺〜久米川仮駅が開業、翌 28 年 3 月に川越(本川越)までの川越鉄道が全通した。

この間鉄道建設は柳瀬川架橋に水害の恐れがあるとの地元住民が反対したため建設工事が中断した。内務省の裁定で橋梁の設計変更することとなる。工事の大幅な遅れのため、やむなく柳瀬川の手前の久米川仮停車場を設け、川越鉄道は暫定開業することとなった。全線開業後久米川仮駅は廃止されたが、東村山の住民は停車場設置を陳情し、工事資金と用地を提供することにより、東村山停車場が同年 8 月 6 日に開業することとなった。東村山駐車場の碑の裏面には停車場開設の寄付者約 250 人の姓名と金額が記されている。

(注)資料〔出典〕

ココミテ東村山(まち歩き発見マップ)、パンフレット「狭山丘陵の都市公園」、HP 東京都教育委員会「東京都文化財めぐり」、パンフレット「下宅部遺跡 縄文の漆」、HP 近代文化遺産見学案内所「国宝・正福寺地蔵堂」、ブログ「いにしえの旅へのいざない隊」鎌倉街道上道埼玉編、HP 天台宗東京教区「恵日山大善院」、東村山市史、HP 西武ホールディングス 西武グループの歴史 以上